

# 認知症 経済支援を

## 岡山 ケア学会中四国大会

日本認知症ケア学会中国・四国ブロック大会が9日、岡山市内で開かれた。当事者や家族への経済支援はどのくらいあるべきかがテーマ。約430人が出席し、講演やシンポジウムを通じて、医療と福祉が連携し、診断直後から切れ目なく支援を継続する必要性について考え

た。大会長の竹本与志人岡山県立大保健福祉学部教授は講演で「経済支援は命に関わる重要な問題」と断言。生活の困窮は、家族らが援助を制限し、最悪の場合、

心中や殺人事件につながってしまうケースもあるとし「専門職が継続的、計画的に関わり、将来を見越したオーダーメイドの支援が重要」と訴えた。

シンポジウムなどを通じて、認知症のある人への経済支援を考えた日本認知症ケア学会中国・四国ブロック大会



が前提になっていないか。働き盛りが退職すれば収入が途切れる。仕事を続けられるような情報提供もほしい」と話した。

出席者は当事者にとって社会保障制度を知る機会が少なく、支援が途切れてしまう期間があることを認識。専門職の知識の底上げを図るとともに、早期の経済評価に視点を置く支援の重

い」と要望。若年性認知症の人は「支援は老年期の人

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。